

# クラウン修復における初心者のためのマイクロスコープ活用法 How to use the microscope for beginners in crown restoration.

菅原 佳広  
月潟歯科クリニック

## 抄録

マイクロスコープは、保存分野に用いられることが多く、特に歯内治療の分野では無くてもならないもののひとつである。保険診療においても根管治療の一部に加算点数が認められるようになり、国内に広く普及してきた。

これに対し補綴領域でマイクロスコープを用いる場合は、拡大視野が得られることと引き換えに視野が狭くなり支台歯の形成軸を見失うことや、視野の切り替えが煩雑になることなどのデメリットが考えられ、広く普及しているとは言い難い。マイクロスコープ初心者にとって、内側性窩洞が中心となる歯内治療やコンポジットレジン修復と比較し、外側性のクラウン修復においてマイクロスコープを用いることはとても難しいと感じていることであろう。

そのため補綴領域にマイクロスコープを使用するメリットが大きいと認識していても、つい拡大鏡で済ませていることも多いのではないかと思われる。

そこで今回は、ポジショニングや視野に制限の多いマイクロスコープを用いて支台歯形成をする場合の手順や具体的な方法、考え方に関して演者の私見を紹介させていただく。特に裸眼視野、拡大鏡視野で行う場合とマイクロスコープを用いて行う場合の違いを詳しく解説させていただく。

さらに、プロビジョナルクラウンのマージン部の調整法や印象採得時の勘所、余剰セメントの除去など幅広く補綴領域におけるマイクロスコープの活用法について症例を通して考察したいと考えている。

また、マイクロスコープの視野によって達成される処置の確実性や治療内容の患者説明など、マイクロスコープの有効性についても解説し、アシスタントワークにおける注意点についても触れながら、マイクロスコープ初心者が最初にぶつかる壁を越えていくためのヒントを示したいと考えている。

## 略歴

1997年 日本歯科大学新潟歯学部卒業  
2001年 日本歯科大学大学院新潟歯学研究科修了  
2001年 日本歯科大学新潟歯学部附属病院総合診療科助手  
2004年 日本歯科大学新潟歯学部附属病院総合診療科講師  
2014年 日本歯科大学新潟病院総合診療科准教授  
2022年 月潟歯科クリニック